

| | | | | | | | | | |
|-------|----------------------------------|--|---------|---|-----|---------|-----|------|------|
| 科目名 | 福祉と建築 | | | | | | | 年度 | 2024 |
| 英語科目名 | Welfare and Dwelling Environment | | | | | | | 学期 | 後期 |
| 学科・学年 | 建築学科 1年次 | | 必／選 | 必 | 時間数 | 30 | 単位数 | 2 | 種別※ |
| 担当教員 | 杉浦 文美 | | 教員の実務経験 | | 有 | 実務経験の職種 | | 建築設計 | |

【科目的目的】

- ・高齢者、障害者の立場に立った社会の仕組みを理解できる
- ・高齢者、障害者の立場に立った住まいの整備を理解できる
- ・高齢者、障害者の立場に立った街づくりの整備を理解できる
- ・建築における福祉の考え方を学び、福祉住環境コーディネーター検定試験の合格を目指す

【科目的概要】

高齢化社会そしてユニバーサル社会の観点から建築に携わることは、これから社会において重要です。現在の福祉を取り巻く社会システムを理解し、いつまでも自立して生活するための住まいや街づくりの知識を身に着け設計に活かせる力を習得することを目的とする。

【到達目標】

- A. 福祉を取り巻く環境整備や社会システムを理解している
- B. 高齢者の健康や障害者の自立支援などについて理解している
- C. バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解している
- D. 安全・安心・快適な住まいの知識を理解している
- E. 安心できる街づくりの知識を理解している

【授業の注意点】

テキストと配布資料をよく理解し、予習・復習を行うこと。
なお、確認テストは欠席・未提出となると0点になるため注意が必要。

評価基準=ループリック

| ループリック 評価 | レベル5 優れている | レベル4 よい | レベル3 ふつう | レベル2 あと少し | レベル1 要努力 |
|--------------|-----------------------------|------------|-------------------------------|--------------|-------------------------------|
| 到達目標 A | 福祉を取り巻く環境整備や社会システムを理解している | | 福祉を取り巻く環境整備や社会システムを一部理解している | | 福祉を取り巻く環境整備や社会システムを理解できていない |
| 到達目標 B | 高齢者の健康や障害者の自立支援について理解している | | 高齢者の健康や障害者の自立支援について一部理解している | | 高齢者の健康や障害者の自立支援について理解できていない |
| 到達目標 C | バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解している | | バリアフリーやユニバーサルデザインについて一部理解している | | バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解できていない |
| 到達目標 D | 安全・安心・快適な住まいの知識を理解している | | 安全・安心・快適な住まいの知識を一部理解している | | 安全・安心・快適な住まいの知識を理解できていない |
| 到達目標 E | 安心できる街づくりの知識を理解している | | 安心できる街づくりの知識を一部理解している | | 安心できる街づくりの知識を理解できていない |

【教科書】

福祉住環境コーディネーター検定試験（3級公式テキスト）／東京都商工会議所
福祉住環境コーディネーター検定試験（3級過去問題集＆実力テスト2023）／ハウジングエージェンシー

【参考資料】

配布プリント、模擬問題

【成績の評価方法・評価基準】

学期末に行う定期試験、授業中に実施する小テスト、試験結果等で評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

| 科目名 | | 福祉と建築 | | | 年度 | 2024 | |
|------|------------|----------------------------------|----------------------|------------------------------|----|------|------|
| 英語表記 | | Welfare and Dwelling Environment | | | 学期 | 前期 | |
| 回数 | 授業テーマ | 各授業の目的 | 授業内容 | 到達目標=修得するスキル | | 評価方法 | 自己評価 |
| 1 | 共生社会 | 高齢化社会の課題と取り組み | 1 高齢化社会の現状と課題 | 高齢化社会の現状と課題を理解している | | 1 | |
| | | | 2 社会の取り組みの必要性 | 社会の取り組みの必要性を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 2 | 環境整備 | 副審の環境整備 | 1 日本の住環境の問題点 | 日本の住環境の問題点を理解している | | 1 | |
| | | | 2 コーディネーターの役割 | コーディネーターの役割を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 3 | ケアサービス | 在宅生活とケアサービス | 1 介護保険制度 | 介護保険制度を理解している | | 1 | |
| | | | 2 障害者総合支援法 | 障害者総合支援法を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 4 | 健康と自立 | 高齢者の健康と自立 | 1 老化と自立 | 老化と自立の関係を理解している | | 1 | |
| | | | 2 食事と運動 | 食事と運動の必要性を理解している | | | |
| | | | 3 ヘルスプロモーション | ヘルスプロモーションを理解している | | | |
| 5 | 障害者支援 | 障害者の生活支援 | 1 障害の種類 | 障害の種類を理解している | | 1 | |
| | | | 2 障害からの自立 | 障害からの自立について理解している | | | |
| | | | 3 社会参加の可能性 | 社会参加の可能性を理解している | | | |
| 6 | ユニバーサルデザイン | バラフリーとユニバーサルデザイン | 1 ユニバーサルデザインとは | ユニバーサルデザインを理解している | | 1 | |
| | | | 2 ユニバーサルデザインの社会 | ユニバーサルデザインの社会の在り方を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 7 | 生活を支える道具 | 共用品と福祉用具 | 1 共用品とは | 共用品の種類を理解している | | 1 | |
| | | | 2 福祉用具とは | 福祉用具を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 8 | 住まいの整備 | 住まいの基本技術 | 1 段差と転倒防止 | 段差と転倒防止の方法を理解している | | 1 | |
| | | | 2 建具 | 建具の注意点を理解している | | | |
| | | | 3 家具・収納 | 家具、収納の注意点を理解している | | | |
| 9 | 住まいの整備 | 住まいの設備 | 1 色彩・照明 | 色彩や照明の計画を理解している | | 1 | |
| | | | 2 冷暖房設備 | 冷暖房設備の在り方を理解している | | | |
| | | | 3 維持管理 | 維持管理の必要性を理解している | | | |
| 10 | 安心・快適な住まい | 安全な移動空間 | 1 屋外移動 | 屋外移動の注意点を理解している | | 1 | |
| | | | 2 屋内移動（廊下、階段） | 屋内移動の注意点を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 11 | 安心・快適な住まい | 快適な部屋 | 1 排泄・整容・入浴 | 便所、洗面脱衣、浴室空間の注意点を理解している | | 1 | |
| | | | 2 清掃・洗濯、調理、起居と就寝 | 清掃、洗濯、調理行為の注意点を理解している | | | |
| | | | 3 妊婦と子供への配慮 | 妊娠と子供への配慮を理解している | | | |
| 12 | ライフスタイル | 多様なライフスタイル | 1 ライフスタイルの多様性 | 多様なライフスタイルを理解している | | 1 | |
| | | | 2 安心して住み続けるために | 安心して住み続けられる住まい方を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 13 | 安心できる住生活 | 住宅・住環境整備 | 1 高齢者や障害者のための住宅・住環境整 | 高齢者や障害者のための住宅・住環境整について理解している | | 1 | |
| | | | 2 少子化社会の住宅・住環境整 | 少子化社会の住宅・住環境整について理解している | | | |
| | | | 3 豊かな生活の実現に向けて | 豊かな生活の実現に向けて必要なことを理解している | | | |
| 14 | 安心できる街づくり | 街づくりの進め方 | 1 やさしい街づくり | 安全でやさしい街づくりについて理解している | | 1 | |
| | | | 2 進めるための諸法制度 | 街づくりのための諸法制度を理解している | | | |
| | | | | | | | |
| 15 | 街づくり事例 | 実践事例から学ぶ | 1 実践事例1, 2 | 実践事例を通して街づくりの在り方を理解している | | 1 | |
| | | | 2 実践事例3, 4 | 実践事例を通して街づくりの在り方を理解している | | | |
| | | | | | | | |

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等